

卒業生へ贈るお祝いメッセージ



日本大学生産工学部
学部長

松井 勇

学部卒業生ならびに大学院修了生の皆様

卒業・修了誠におめでとうございます。

ご家族の皆様のお慶びもひとしおのことと
心よりお慶び申し上げます。

20世紀から21世紀への時間の流れの中で、世界の
国々の社会経済情勢と産業構造は大きな変容を示し始
めました。もちろん、我が国も同様です。

特に、2007年のサブプライム住宅ローン問題に端
を発した米国住宅バブル景気の崩壊をきっかけとして、
2008年9月15日、投資銀行であるリーマン・ブラザー
ズが破綻し、アメリカ経済に対する不安が広がり、世
界同時不況へと連鎖しました。

このリーマンショック（クライシス）により、米国の一
極体制は崩壊し、現在まで続く「世界的連鎖型恐慌の
予兆」の時代が始まったと言えるでしょう。

同時に、EU（欧州連合）の金融危機は、2009年10
月のギリシャ政権交代による国家財政の粉飾決算の暴
露から始まったと言われています。現在、金融危機の
連鎖がスペイン、ポルトガル等ユーロ加盟諸国やハンガ
リー、ラトビア等東欧諸国へ波及した場合、世界的な
金融危機に発展するかもしれないと懸念されていると
ともに、イタリア情勢の深刻化を始めとして欧州通貨統
合が広がるにつれ、PIIGSと呼ばれる国々の経済の弱
さが浮き彫りになってきました。

このような世界情勢の中、我が国は「円高」と「産
業の空洞化」が顕在しています。「円高」になると日本

の労働力を始めとする生産要素価格が他国に対し相対
的に高くなり、その結果、輸出財の競争力は低下し、
輸出が減少して輸出企業やその下請けなどの関連企業
の業績が悪化する要因となります。一方、輸入財は相
対的に割安になるため、国内生産品より競争力が増し
輸入が増加することになります。輸出の減少と輸入の
増加は、純輸出を減少させるためGDP（国内総生産）
の縮小につながり景気の悪化を引き起こします。

加えて、「産業の空洞化」は、1980年代後半のプラ
ザ合意による円高を背景とした国内工場の海外移転を
皮切りに、1990年代中頃の円高による国内工場の海
外移転、2000年代の中国などのグローバル化による新
興国への国内工場の移転、2010年代の世界同時不況
における日本銀行による量的金融緩和の相対的不足の
ための円高による国内工場の海外移転、などが挙げら
れます。

内閣府の調査では、日本の製造業の海外生産比
率は、1985年度は3.0%、1990年度は6.4%に達し、
2009年度は17.8%を占めています。「産業の空洞化」
による問題点としては、「国内における雇用機会の喪失」
「地域産業の崩壊」「技能ノウハウを生む生産現場の劣
化」「貿易黒字を生む国際競争力の減退と喪失」といっ
た悪影響が指摘されています。

このような社会・経済状況の中で、我が国の産業の
生き残りと今後の大いなる発展は、新しい技術を創造
することにほかなりません。我が国は「科学技術創造
立国」として国際的にも自他ともに認められてきました。
卒業生・修了生の皆様はまさしくその一員です。

昨年3月11日午後2時46分、東日本を襲った地震、
津波、それに追い打ちをかけた原発事故の「巨大複合
災害」は、日本という国、日本という社会の実際の有

様を全て表わしたと言えましょう。

深い悲しみや大きな喪失感の中で新しい歩みを始め
てゆかねばならない多くの被災者や被災地に対する救
済や支援の在り方、復興の進め方、すべてが人間を取
り巻く現実であり、どう向き合うべきか等を一生に一度
あるかないかの機会に一人ひとりが考えたことと思いま
す。

今こそ「人間の叡智」が問われる時であり、「技術者
の知恵と創造力」が期待される時だと言えましょう。

我が国の産業が国際競争に立ち向かいつつ、人類
や社会や自然に対し、真に十分な効果や成果を上げる
ために、企業は卒業生や修了生の皆様のような若い人
材に斬新な発想で新しい分野の開拓や新しい科学技術
や工学技術の創造を強く求めているとともに大いに期待
しています。十分な成果を得るためには多大な努力と時
間が必要になる場合があります。その過程でいくつか
の困難や失敗をも経験することでしょう。しかし、失敗
を失敗で終わらせることなく、失敗の中に隠された小さ
な成功を見逃さず成長させることが重要です。

何かありましたら、いつでも遠慮することなく、大学
を訪れてください。大きく高い山に登るにはベースキャン
プが必要です。皆様のベースキャンプは言うまでもなく
生産工学部であり、研究室であり、卒業研究や論文の
指導を受けた先生方です。そして、日本大学のスケール
メリットを大いに活用してください。校友（卒業生）
は100万人を超え、世界中の国や地域で活躍していま
す。今後は、いろいろな校友との協同・協働を行うと
ともに、日本大学の卒業生・修了生としての誇りと自信
と勇気を持って大いに活躍されることを心より祈念して
「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

おめでとうございます。

特集

2011年の就職状況と2012年の展望

<2011年の状況>

超就職氷河期が続いています。

2011年の就職活動が始まった2010年の冬には、前々年の秋に発生したリーマンショックによるグローバルな金融・経済ショックから立ち直る兆しが見えましたが、年が明けて就活が本格化する矢先に、3.11東日本大震災が起こったことにより、一挙に氷河期に戻りました。同時に、例年のように2～4月の選考（試験や面接）の後、5月に内定、その後、採用数が充足できない場合は7～11月に第二次の選考・内定といった採用スケジュールが、個々の企業で相違しその影響が学生側にも広がりました。

大学新卒者の求人倍率も2008年2.14倍⇒2009年1.62倍⇒2010年1.28倍と下降し続け、さらに2011年⇒1.23倍となっています。同時に厚生労働省調査では就職活動が終了する10月時点の内定率も、2009年62.5%（前年に比べ7.4ポイント減）⇒2010年は57.6%（前年に比べ4.9ポイント減）、2011年は若干持ち直したものの59.9%（前年に比べ2.3ポイント増）と、以前の「就職氷河期」の最低ラインの60%後半の内定率を、依然として下回っています。

このように求人倍率が1.23倍あるにもかかわらずなぜ内定率が低い

か、そのギャップは

1) 企業規模（大きさ）別によってその倍率が異なることです。すなわち

① 1,000人以上の規模では倍率が0.65倍（5,000人以上は0.49倍）、
② 1,000人以下では1.86倍（300人未満の中小企業は3.35倍と高い）となっていますが、

2) 大学生の就職希望者の選択は有名大企業に集中していること、さらに、前年の2010年3月卒業者の未就職者も2011年の就職戦線に加わっていることなどが大きなギャップを生み、「超就職氷河期」を招いている原因となっています。

そうした中で生産工学部もかなり厳しい状況にあります。2012年1月現在の学部全体の求人総数は2,484社で、就職希望者は1,176名ですから、求人倍率は2.11倍と全国平均より高いものの、実際の内定率は学部全体で65.8%（うち女子は59.9%）、大学院は77.6%（うち女子は50.0%）と、前年と同様の水準にあります。

最終的な就職決定状況は3月末日にならないと判明しませんが、過去の状況を参考にしますと、90%に到達するかどうかという予測です。しかし、なぜ内定率がこれほどに低いのか、もちろん学科により内定率のバラツキもありますが、それぞれの専門的な知識や技術が活かせる業種・業態の景気

によって企業の求人状況が変化しているため、と考えられます。

<2012年の展望>

一言でいえば就職状況が好転する材料は極めて乏しいことが予見されます。以下に述べるように、特に企業側（求人）の採用要件と就職を希望する学生（求職）の求める条件のバランスが崩壊状態にあり、大きなミスマッチが生じていることです。

①ヨーロッパを中心としたグローバルな金融不安が継続[※]ギリシャの債務デフォルト（国債の償還ができない）による金融不安が全世界に波及していることなどにより、中国を筆頭に堅調な新興国の消費が減少しているため、日本企業の輸出が低調にとどまっている。

②円高の進行と定着[※]対米ドルの為替レートが70円台、また対ユーロの為替レートが100円台では、国内の製造コストがかさみ、輸出産業は回復しない。同時に

③日本企業の海外進出（中国・東南アジア）が加速化[※]国内雇用の縮小とグローバル展開のため、外国人（留学生）採用が増加

④正規雇用者の厳選採用（特に大企業）の定着[※]大学卒業者の増加（20年間で進学率は2倍）と③の海外進出の加速化により国内雇用量の減少と、将来の経営幹部要員としての正規

社員雇用の絞り込み

⑤就職（就社）意識の保守化傾向の進展[※]学生は安定雇用や年功賃金の希望が増加、海外や国内遠隔地の勤務を望まないという意識への転換、それとは逆に企業側はチャレンジングで元気な活力ある人材（グローバル人材の採用）を求める採用要件とのギャップなどが確実に見通せます。従って2012年も超氷河期は続くものと予見されます。

この記事を読まれる頃、大多数の方々はこれからが就活の本番です。改めて自分発見と企業選択のポイントを申し上げます。

<自己分析の5つのポイント>

- ①自分にとって働く（労働）ことはどのような意味があるのか
- ②どのような仕事をしたいのか、その仕事を成し遂げるだけの能力があるか
- ③その仕事を達成するための強い意志を持続けられるか
- ④他人と比べ、自分の良いところ（長所）と、悪いところ（短所）を知っているか
- ⑤年齢や性などにかかわらず、色々な人達と目標に向かって協働できるか

<企業研究の4つのポイント>

- ①業種・業界・業態によって「求める人材像」が相違することを認識しているか
- ②マスメディアに登場する企業（有名

大企業）が良い企業とは限らない。ブランドにとらわれずに、独自の技術やアイデアを持つ企業（オンリーワン企業）を発見する

③自己資本比率と経常利益率が高く、平均年齢が若い企業（借金が少なく、本業で儲けており、組織の活力がある企業）に注目する

④特に自分の身の丈（能力のレベル、性格の適合、ヤル気・意志）に合った企業の選択を心がける

世の中広し、といえども自分と瓜二つの人間はいないのです。就職活動も選択する企業もそれぞれ違って当たり前なのです。

企業の戦略設定に「最適解（ベストの解）」と「満足解（ベターの解）」という考え方があります。「氷河」に立ち向かい、「氷河」を切り裂いて前進（ベストを求め）するのか？それとも現実を直視し、「氷河」を避けながら進路を修正（ベターを追求）して行くのか、これが大事な選択となります。この時に重要なことは、不確定なかつ信憑性に乏しい情報に左右されず、自らが確信をもった判断材料（経験、知識、情報、助言）で選択することです。

人によっては、長く険しい就活となるかもしれませんが、実は「本当の自分発見」と同時にその「自分との闘い」でもあります。決して自分を見失わないよう頑張ってください。

Contents

■学部長メッセージ	2
■特集	
2011年の就職状況と2012年の展望	4
■就職活動体験記	6～9
■特別企画・覆面座談会	
「こんなヤツ要らない!!」	10～13
■連載／卒業生インタビュー	14
矢崎部品（株）電線外装開発センター長 勝亦 信さん	
■学科 ニュース	16～18
■CAMPUS NEWS	19
■平成23年度表彰学生	20
■ミモミのもっと BikaBika 生産工	22
■平成24年度行事予定	23



表紙：生産工学部で行われた就職セミナー風景

機 械 工 学 専 攻 吳 昊（全日本空輸株式会社 内定）

私は幼い頃から飛行機が大好きで、将来は飛行機に携わる仕事がしたいと考えていたので航空会社を軸にして、航空部門のある会社を回りました。的をある程度絞っていたため、エントリーした会社は合計で10社ほどです。少し心細い感じもしましたが、そのぶん企業研究を重ね、就職指導課を頻繁に訪れ、エントリーシート（以下ES）を推敲していきました。

というのも、ESは初期段階の選考のみならず、面接中は常に面接官の手元にあり、書かれた内容を基に質問してくるからです。就職指導課の方にアドバイスをいただきながら、強調したいところを太文字にし、文章をシンプルにまとめるなど、誰もが一読しても分かるように仕上げることを意識しました。

私がESを書く際に一番の話題として用いたのは、パイロットライセンス取得の経験です。飛行機を操縦するという夢の実現はもとより、航空業界で仕事をする上で、飛行機について詳しく知ることはとても大切だと思い、学生時代の集大成として機械工学科主催のパイロット育成プロジェクトに参加しました。慣れない土地での訓練、迫りくる帰国日と試験。そのプレッシャーとの戦いは同期7名の絆を深いものにし、社会で働く上で絶対必要なチームワーク力、航空知識、そしてパイロットの視点を中心に多くのものを得ることができました。面接でもこの経験について質問をされ、とても答えやすかったのを覚えています。

面接ですが、はじめはボロボロでした。一次面接で緊張して頭が真っ白になり、言葉がすぐに出てこなかったのです。

そこで、問題点を克服するために二次面接では事前に聞かれそうな質問に対する回答をまず整理し、棒読み状態になってしまっては説得力が無くなってしまうので丸覚えするのではなく、キーワードを押さえて、臨機応変に答えることができるようにしました。

まとめる過程において、就職指導課の方々、機械工学科の先生に添削をお願いし、さらには意見交換をすることで、どんどん良いエピソードが引き出され、数あるエピソードの中でも絶対に自分のベスト3までは話して帰ろうという気持ちで以降の面接に臨みました。そのときの熱い思いが第一志望のANAが求めるパーソナリティと重なった時、内定という結果に結び付いたのだと私は思います。

就職指導課をはじめ、機械工学科の先生、事務の方々にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

後輩の皆さん、企業は人物を見て採用してくれています。自分をアピールするためにも、働きたいと思っている企業が何の事業に携わり、どんな人材を求めているのか良く知り、企業が必要としている要素を自分が持っていると言え、経験を多く積んでおくことESや面接において大きな武器になります。

また、私は何度も就職指導課を訪れアドバイスを受けていました。就職のプロフェッショナルが身近にいないが頼らないのはもったいないです、活用して自分を磨いていってください。

皆さんの成功を心からお祈りいたします。

電 気 電 子 工 学 専 攻 福 島 悠 平（日本電気株式会社 内定）

私が就職活動を開始したのは12月の初めからでした。日本電気の学校推薦枠があるということで、一般応募と並行して就職活動を進めていきました。本学には例年多数の企業から求人を頂いているので、まず就活のスタートとして電気電子工学科の就職資料室に足を運ぶことをお勧めします。私は学部の1年次から資料室を訪れ、求人先の企業のチェックや業界研究などを行っていました。

また、毎年2月上旬に行われる生産工学部合同就職セミナーは、皆さんの就活でも重要なものになります。企業とのお見合いの場でもあり、お互いを理解する絶好の機会でもあるので、企業研究や社会人としてのマナーを十分に学んでセミナーに臨んでください。私は日本電気にはどのような部門があるのか事前に調べ、セミナーで各部門の仕事内容について質問し理解を深めることができました。同時に企業側に顔と名前を覚えてもらうこともできました。就職資料室の求人

も合同セミナーも「生産工学部の学生を採りたい」と企業から来ていただいているわけですから、当然内定の確率も高いということです。

皆さん、積極的に本学の就職支援を活用してください。

3月からは会社ごとの説明会やエントリーシート（以下ES）の提出、テストセンターが始まり、いよいよ就活も本格的になってきます。その中でESの作成が一番重要だと思います。基本的に面接ではESの内容から質問されるので、ES作成時に自分の中で核となるような回答を考えながら文章を考えておくと、面接の場でも頭が整理されてESの内容を説得力を持って言葉にできるからです。

私はESの志望動機を考える時に、毎回1000字近く志望動機を書き、最終的に5行まで集約する手法をとっていました。5行しか書かないのに1000字なんて無駄な労力じゃないかと言われそうですが、そもそも5行しか志望動

機が書けなかったら面接で通りません。皆さんESでは頭の中を整理する意味でもしっかり時間をかけてください。

そして最後は面接です。面接ではコミュニケーション能力が大事とされていますが、コミュニケーション能力がある人というのは、話し方が上手い人というわけではなく、相手の話を理解したうえで、自分の意思を伝えることができる人だと思います。面接では言葉のキャッチボールを心掛けてください。どうしても緊張してしまうと思いますが、私は面接は「自分を売り込む場」ではなく、「会話をしに行く場」と思うようにして面接に臨んでいました。そうすれば緊張感も

抜け、自然体で話せると思います。

リラックスしていることが面接官にも伝わると、面接官もリラックスして和やかな雰囲気での面接になります。

就活中は不安が一杯で、自信をなくしてしまったり、もう就活をやめてしまいたいと思う方もかもしれません。しかし自分が会社に入ってやりたいことを明確に持つこと、会社に入ってから自分の姿をイメージして選考に臨めば大体の選考は合格すると思います。

皆さん、ぜひ納得のいくまで頑張ってください。

土 木 工 学 科 木 村 亜 彩（中日本ハイウェイ・エンジニアリング 東京株式会社 内定）

私の就職活動の期間は、説明会が始まる11月から内定通知をいただいた5月までの7か月間でした。高速道路会社に魅力を感じた私が、内定通知をいただくまでの活動経緯を述べていきたいと思います。

まずは、就職活動の計画を立てることから始めました。インターネットを利用して自分の働きたいと思う会社をピックアップし、その会社の説明会、試験の日程を基に何をすべきかを取捨選択し、就職活動の大まかな計画を立てていきました。

説明会では、他社にはない特徴やホームページだけでは分からない詳しい事業内容等を聞くことができたので、後のエントリーシートや面接の準備に非常に参考となりました。また、説明会の際、特に注目したのは女性への待遇でした。男性が大半を占めるこの業界で女性がどのように活躍しているか、女性の採用実績等を直接聞くことによって会社とのミスマッチがないように努めました。

説明会の時期が終盤を迎えると、次なる対策はSPI等の適性検査でした。私は、適性検査を甘く見ていて、最初のほうに受けた適性検査はほとんど落ちてしまいました。働きたい会社が決まってくるこの時期に適性検査で落ちたことに焦った私は、自分の苦手分野克服のため、1冊の教本を暗記できるぐらい何度も繰り返し勉強するようにしました。

エントリーシートや適性検査等を突破して最終的には面接となるのですが、この面接において最も大切なことは、先輩方が度々口にしていた、自己PRと志望動機に尽きると思います。自分は何がしたいのか、その会社に入って何ができるのか等を常に念頭に置きながら面接直前まで意識していました。この志望動機の判断材料となったのは、多くの先輩方からのアドバイスでした。何度もOB・OG訪問をしていくうちに、仕事内容だけでなく、先輩方の会社に対する思いを聞くことができましたし、私自身のモチベーションの向上にもつながったと思います。また、面接本番では思っている以上

に緊張して思うように伝えられなかった等、後悔のないようにあらかじめ本番さながらの面接対策が必要であると感じました。

ここまで、一連の就職活動について述べてきましたが、どの項目も手を抜けないことばかりです。無理をせず、計画性をもって1つ1つを確実にこなしていくことが内定につながり、自身の自信につながると思います。

就職活動は、自分の過去・現在を基に未来におけるビジョンを見出せる絶好の機会だと思います。これから就職活動をする方々には、周りの環境にとらわれず、未来の自分にわくわくしながら取り組んでいただけると幸いです。



建築工学専攻 久保木 修平（成田国際空港株式会社 内定）

私の就職「活動」は、大学入学時からすでに始まっています。

今年度、選考を受けた会社は、内定をいただいた成田国際空港株式会社（以下 NAA）の1社のみです。企業研究以外で、他社での就職活動は行いませんでした。

選考を1社しか受けなかった理由として、設計競技や修士の研究、研究室の仕事などをないがしろにしないためと、NAAは幼い頃から「働きたい」と憧れていた夢舞台だったので、万全を期して選考に臨むとともに、「空港」という誰もが知っている企業で働くという私の念願を達成することは、至難の業だと覚悟していたからです。

選考の準備・対策として、長期・短期的に行った2種類があります。

では、はじめに長期的に行ったものの中から3つを紹介します。

- 人脈・視野・見識の拡張
- 友達作りから仲間作りへの移行
- 旅

社会・地域貢献のボランティアなどはもちろんのこととして、講演会や朝活への参加を定期的に行いました。さらに他大学の研究室に約束をとりつけ、研究やプロジェクトなどの話を聞かせていただき、たくさんの刺激をいただきました。私は、自分が所属する環境と組織で一生が決まると考えています。友情というのは結果論であり、大学という誘惑が多い状況下で、同じ意識を共有し、同じ方向に向かって歩める仲間の存在は大切であると感じました。これらがきっかけで参加した「トウキョウ建築コレクション（修士設計・論文展）」の実行委員の経験は良き思い出です。

また旅での出会いもたくさんあります。建築探訪をかねて国内外問わず、有名建築を訪れては写真やスケッチをしてまわり、時には地元の人・現地の学生などと過ごす時間を楽しみました。建築においては、コルビジエが設計したロンシャンの礼拝堂で受けた感動は今でも忘れることができません。

長期的な準備・対策としては、経験というすべての「素材」を自分がやりたいことの「本筋」へ集中するように意識し、その本筋を成長に伴い太くしていくことが大切だと思います。

次に就職活動直前から短期的に行ったものを3つ紹介します。

- 新聞を声に出して読み、必要があればノートへ書き取る
- マインドマップの作成
- 親や先生など目上の人との積極的な会話

新聞はどこの新聞社でもかまいません。肝心なことは美しい文章に触れ、最終的にその文章（言葉）を使いこなすことです。また周囲の人から評価していただいた自己分析とは別にマインドマップを作成し、自分の心と思考の視覚化を定期的に行いました。さらに親・先生との会話は自己を見つめ直す絶好の機会になりました。

就職活動において最も大切なものは「情熱」です。私自身、空港が大好きで、大学に入学してから100回以上は訪れました。

優秀な成績や賞歴など、努力して作った器のハードがあっても、中身のソフトが融合しなければならないことは言うまでもありません。

それでは最後に一言だけアドバイスを。「頭で考えるのではなく、まず行動」

応用分子化学科 鯉沼 聖美（トモエ乳業株式会社 内定）

私は、3年の12月から就職活動を始めました。就職活動を始めた当初は、エントリーシート筆記試験で落ち、面接までいくことができませんでした。二次選考に進むことができず、このまま就職できないのではないかと悩んだ時期もありました。しかし、このまま悩んでいるだけでは、決まるものも決まらなくなってしまうと思い、自分から積極的に行なわなければいけないと決心しました。それからは、就職サイトだけで企業を探すのではなく、インターネットで企業のホームページを探し、採用情報を見て、電話をかけるようにしました。

昨年3月に起きた大震災で、多くの企業が採用試験を一時ストップしました。就職活動を中断するのは、モチベーションを維持する上で大きな痛手でした。超就職氷河期と呼ばれる中、大震災まで起きて今年の採用はどうなるのかと、不安

になってしまいました。6月になり、就職活動を再開しましたが、不安と緊張からか面接ではガチガチになってしまっていました。そのためか二次面接まで進めませんでした。今までの自分を見つめなおし、自分の強みを出すにはどうすればいいのか考えました。これまでは、自分でイメージしていた面接よりも、笑顔が少なかったかもしれないと思い、笑顔を忘れず、ありのままの自分を出すことにしました。笑顔になることで気持ちが明るくなり、楽しんでできるようになりました。

最後に、就職活動では、まずは、自分を知り、強みを見つけることが大切だと思います。焦っても良い結果が出ることは少ないと思うので、周りに流されず、自分のペースでいくのがベストです。

マネジメント工学科 大岡 祐一朗（有楽土地株式会社 内定）

私は当初からデベロッパーやハウスメーカーといった街づくりに関わることでできる業種に絞り、就職活動をしていました。

説明会やセミナーに参加し、またインターネットを通じて企業研究をしました。興味のある企業には面倒くさからずに積極的に足を運ぼうと決めていました。実際、自分で見て、感じる事が大切です。本当に興味があるのか、本当に行きたいのか、もっともっとこの会社のことを知りたい、など多くのことを感じる事ができると思います。そして、志望度が上がった企業に関しては積極的に社員訪問を行いました。

説明会やセミナーでは表向きのことしか分りません。社員訪問では実際に現場で働いている社員の方のお話を聞くことができ、質問にも対応してくれます。仲良くなった社員には面接のアドバイスを頂いた方やE Sの添削までして頂いた方もいました。特に、最終的には「人」で企業を決めたいと考えている方は多くの社員訪問をして、本当に行きたいのかを判断してほしいと思います。

面接に関しては自分の意見を簡潔に話すことが大切です。皆さんも一度は感じたことがあると思いますが、話が長い先生の授業はつまらないですね。しかも、長すぎて結局何が言いたいのかわからない。面接もこれと同じです。自分のことをアピールしたい気持ちが先行し、つい話が長くなってし

まいがちですが、面接はあくまでも会話です。相手の質問に対して自分の意見を簡潔に伝えることが大切です。

また、面接は絶対に数を受けた方がいいと思います。私も面接で多くの失敗をして、少しずつ上手くなりました。自分は人と話すのは得意だと思う人も意外と苦戦するかもしれません。なぜなら、「話すこと」と「伝えること」は別だからです。短時間で簡潔に伝えることは思っている以上に難しいのでしっかり準備をして臨んで下さい。

また、長く続く就職活動では絶対にネガティブにならないで下さい。就職活動中は不確定要素も多く、自信を失くしたり、不安になったりすることもあると思いますが、そんなことは当たり前です。落ちるのも当たり前、リクルーターに裏切られるのも当たり前です。そんな時こそ、課題をポジティブに捉え、克服し成長しながら、就職活動をしてほしいと思います。

最後になりますが、ある人の言葉を紹介したいと思います。「恥ずかしいと面倒くさい気持ちがなければ人は10倍成長できる」

失敗は恥ずかしくないですし、面倒くさがっては何もしません。就職活動は必ず自分を成長させてくれるので諦めずに頑張ってください。

数理情報工学専攻 山保 太力（富士通フロンテック株式会社 内定）

「MUST DO を CAN DO に変える。」これが就職活動を打開する決め手だと思います。

私は、自分自身を把握することから活動を始めました。自分が見えてくれば、相手（企業、働く姿）も見えてくる。そして、相手が見えてくれば、周りが見える。周りが見えれば余裕が生まれる。就職活動用の自分をつくる必要はなく、今までの自分とこれからの自分をどれだけ相手に意識して伝えられるか、そのための整理が就職活動の出発点ではないかと感じます。

自分らしさを自分の生きた言葉で伝えることは、用意した言葉を告げることではないと考えます。活動の初期では「こう聞かれたらこう話さなければいけない」というように、それこそ一字一句覚えるほど念入りにシミュレーションを行うことがあり、いわゆるアドリブへの耐性がないに等しい状態でした。そのために、面接本番で頭が真っ白になるという経験もしてしまい、このアプローチの間違いを自覚しました。

なぜ緊張するのか、私は分析しました。初めて訪れる場所で、会場の独特の雰囲気の影響されてしまう点もあるかもしれない。だが、それ以上に、あまりにも自分の存在を定型化し過ぎていたのではないかと、そう思ったのです。面接を何回か重ねる中で、面接官の質問を様々な角度から浴びるとはいえ、聞かれていることに大きな差はないこと、そして、根底にあるのは会話であり、コミュニケーションを通じて相性を見られているだけなのだと感じました。そ

の気づきを得られてからは、緊張の度合いもぐっと減り、面接官の表情はもちろん、着けられているネクタイの色まではしっかりと見えてくるようになりました。何を聞かれているのか、本質は何か、それらを見極めるよう意識して、簡潔に自分の言葉で答えること。整理した頭の中の付箋を紡いでいき、その瞬間に生まれる言葉で会話を楽しむこと。面接はこの2つが鍵だと学びました。

ところで、ここまでお読みいただいて恐縮ですが、他人の体験談や就職活動本が参考になることは稀だと思っています。オリジナルの作詞作曲で臨むこと。もし、誰かのカバーをすることで、表現の幅が広がり、新たな一面を伺わせるきっかけになるならば、その人は元々魅力的だったことになりま。誰かに自身の個性まで合わせてしまうのは、就職活動用に自分をつくることであり、その人本来の魅力を消し去ることになるのではないかと考えています。重要なことは、どれだけ自分を知っているかであり、その中で、足りない要素を補おうとし、持っている力をさらに伸ばそうとできるかにかかっています。あれもやらなければ、これもやらなければと自ら視界を狭めてしまうのではなく、周りを見渡して的確に認識し、自分を客観的に見つめ、その上で今何ができるのかを考えていく姿勢。その体得は早ければ早いほど効果的だと感じます。

冒頭のモットーを頭の片隅において、ぜひ未来の基本設計を構成していただけたらと思います。

こんなヤツ要らない!!

企業採用担当者からの
「反面教師的アドバイス」



依然、雪解けの気配は見えず。引き続き“超氷河期”と称される就職戦線だからこそ求められる効果的な就活なのだが、果たしてそれができているのか。本学部就職セミナー参加企業採用担当者が本音で語ってくれた、ここがおかしいぞ、キミのシューカツ……。

参加者 A氏：IT／B氏：建設／C氏：建設／D氏：商社／E氏：プラント

■あ然！ 呆然！ シューカツ最前線

【A】 当社は3階なので、会社訪問の学生はだいたいエレベーターに乗ってきます。エレベーターの扉から会社のフロアの扉まで2～3m。最近、その3mぐらいしかないとところでモジモジ、モジモジしている学生が多い。エレベーターが止まればピンポンと鳴ります。ああ、学生が来たかと分かります。そこから入ってくるには、ベルをピーツと押すなり、ドアをノックするなり、あるいは「失礼します」と声をかける。その3つのどれかをやればいいわけですが、それができない。ときには、そーっとのぞくヤツがいて、視線が合うと逃げるんです(笑)。この一瞬で、私の中で使えるヤツが使えないヤツかが決まる。

【E】 私どもは個別面接で、学生を最初に部屋に通しておき、担当者が後から入っていきます。こちらがドアをノックして入って、「こんにちは」と言うんですが、学生は座ったまま(笑)。さっと席を立て「よろしくお願ひします」と言う学生もいる反面、モジモジして何もできない学生も多いですね。

【A】 最近あまり変な格好で来るのはいませんが、女子学生で「そこまで化粧しなくていいよ」というのが。厚化粧で「作りすぎ」だって(笑)。

【B】 まだ、肌もきれいな年齢なんですからね。

【A】 もう1つ。写真も作りすぎの場合があります。これも女子学生で、本人と会っ

たときに、「ええっ、できすぎじゃん、この写真」っていう(笑)。

【D】 航空業界とか放送業界ならともかく、一般の企業であれば写真館で普通に撮ってもらって、ナチュラルメイクで十分ですよ。

【A】 最近、写真をフリーハンドで切って張ってくるのって多くないですか？

【E】 それと、スナップ写真。後ろに柱やふすまの柄が見えたり(笑)。

【B】 履歴書というかエントリーシートも、男なのに丸文字(笑)。文字は上手下手じゃなくて、丁寧に書くか書かないかですが、それにしても丸文字はちょっとね。

【D】 最後のほうにいくに従って字が小さくなっていくのは(笑)、このスペースにまとめられなかったから。計画性がないんだなと思います。

【C】 「私はコツコツ、几帳面に粘り強い」と殴り書きで書いてくる人もいます。どこが几帳面なんだって(笑)。

【D】 今、ナビがすごく発達していて、たくさんの会社を同時に受けることが簡単になっていますから、エントリーシートの数や履歴書の数が増えちゃって、全部を丁寧に書くのは物理的、時間的に難しいのかもしれない。丁寧に書いてあれば「うちが本命？」と思うんですけどね。

【E】 志望動機など説明するときに、「～じゃないですか」と相手に同意を求めるような話し方をする。あれは違和感がありますね。

【A】 私は、言葉遣いはあまり気にしまし

え。我々だって敬語なんかよくとちってますから(笑)。

【D】 確かに、言葉を商売にするアナウンサーならともかく、今時の学生さんが謙譲語や丁寧語を使い分けできないのはこちらがよく分かってますからね。

【A】 言葉遣いより、大事なのは伝えたいことをちゃんとと言えるかどうか。「君、何が言いたい?」って聞き返すことが多いですよ。思いつきで発言して、それで終わっちゃう。

【B】 それ、ありますね。

【A】 じゃあ、もう1回リセット! とか言って。

【B】 面接者に対して「こいつは勉強してる。うちのことも研究している」という印象を与えたいのか、難しいことを聞いてくる学生がいます。「その言葉の意味を知っていますか?」と聞くと、実はチンプンカンプン(笑)。無理せずに分かる範囲内で聞いたらいいのに。

【E】 親の意見に影響されるケースも多いですね。内定を出しても、親に反対されるとすぐに気持ちが揺らいで辞退してくる。

【B】 特に男子ですね。うちは地元志向というか、エリアを決めて、その中での異動はあるけれどエリア外へはないというのと、内外を含めて異動がありますよという全国採用とあるんですが、「エリアってどういうシステムなんですか」って真っ先に質問してくるのは男子。それが寂しくて。

【D】 表現が悪いけど、情けない。

【B】 情けないですよ。我々のころは、逆に親から離れたくて、「どこへでも行きます」って言っていましたから(笑)。親御さんの影響なのかどうか、家から通える範囲に就職したいという傾向が強い感じがしますね。

【E】 エントリーシートに自分の志望動機、

性格など書いて暗記したものを思い出しながら、書いている文章と同じようなことを話し出す学生も多い。

【B】 それも参考書があって、それで作っちゃう。私どもはグループ面接をやりますが、緊張しちゃうと頭が真っ白になって、あとは沈黙するだけ。ただ覚えてただけだから、緊張すると何も答えられない。

【E】 説明会や会社訪問のキャンセルだって何も言ってこない。連絡があるのはまれです。会社訪問で来る学生というと10人とか15人なんですが、申し込みメールをもらったら、こちら「何か急用ができたような場合にはご連絡ください」というメールを返信しています。でも、当日連絡なしのキャンセルが多いですね。「まあいいか」なんですよ。

【A】 その学生はそこで終わり(笑)。

■最近の男子はなぜ草食系ばかり?

【A】 一番駄目なのは草食系。冒頭でお話しした当社のエレベータを降りてからの入り方でも、男子はほぼできない。だけど、女子はだいたいできます。

【E】 何でですかね。最近の男子学生は本当におとなしい。筆記試験などはそこそこできるんですけど、ボソボソおとなしい学生ばかりです。

【C】 泥臭さがないですね。スマートはスマートなんですけど。

【A】 いい言葉で表現すればスマートですけど、かっこよさではない。なんか違うんだよね。当たり障りなくとか。

【D】 面倒は避ける。

【A】 よい子ぶっている。よい子風、かな。よい子じゃないんだなあ(笑)。特に男子が。

【B】 6月、7月になってくると「体育会系学生紹介します」という電話がかかって

くるんです。特に建設業なんかそういう人がいいでしょうって。もちろん、必要なのは体力だけじゃないですけど、そのあたり、そういう世相を反映しているのかなあと。

男女平等の時代に言うことじゃないですけど、建設業はやっぱり男の職場なんです。なのに面接で圧倒的に元気がいいのは女子です。よく業界の採用担当と話をしますが、面接で20人受けに来て、上位から10人並べていくと全部女の子なんです。「男ども、元気出せよ」という状況なんですね。

【A】 IT業界だって同じですよ。できの悪い男子は採らないで女子を採っていれば、今の日本の多くの企業は業績がこんなにひどくはならなかった(笑)。

【B】 「私は結婚しません。現場一筋でやっていきます」という女子を採用したんですが、もうバンバンやっています。だけど顔に傷でもつけちゃったら本当に結婚できなくなりそうで、つらいところもあるんです。

【A】 採ってあげてくださいよ。日本の将来を考えたら、変な男子より絶対いいですよ。

【B】 泥だらけになって頑張ってますからね。だから「男子もっと頑張れよ」と言いたいですね。

【A】 当社の場合、名刺の裏に「肉食系男女」と書いてあるんですが、男子にも女子にも、必ず「肉食系か草食系か自己判断して」というと、女子は例外なく肉食系、男子はほとんど草食系っていいですね。

【E】 企業も変わってきたと思います。私どもも、今年「営業をどうしてもやりたい」という女子を採用しました。台湾、中国、シンガポールなど、研修で海外3現場ほど回りましたが、きちんとやってきます。しっかりしてますよ。

【D】 あとは企業さんが現場へ出せるかど

うか。ちょっと怖いおじさんがいるところも多いし。

【B】 そういう怖いおじさんが、女の子が「すみません、やってください」って行くと、「しょうがねえな」って(笑)。変な若造が行くと、「バカ野郎お前みたいなヤツが俺に指示するな」って言われるのがオチですけど(笑)。

【E】 エンジニアリング業界は、まだまだ保守的な部分があります。技術打ち合わせに女性が行くと、「バカにしてるのか」というような口調で言われることもありますので、なかなか女性の技術者というのは……。

【B】 本当は能力あるんですけどね。

【E】 徐々に変わっていくんでしょうけど、いけないところですね。

■学生だって「就活ナビ」の被害者

【E】 今、ガイダンスとかそういったことで、就職活動する方にこういうことをしなきゃいけないと大学側でサジェスションされるんですが、逆にマニュアル人間というのか、それに従ってしまっ、よくないほうに出てくるケースも多いんじゃないかと思いますね。

【D】 金太郎飴ですよ。

【E】 みんな同じですね、タイプが。

【C】 面談のときに、「これから卒業までに何を一生懸命に磨いておいたらいいですか?」という質問を、学生のほうからしてくるんです。こちらから見ると、それは会社に入ってから磨けばいいわけです。それより、学生のときには学生のうちにできること、バイトばかりするんじゃないで、もっともっと見聞を広げてほしいなというのがこちらの思いなんですけどね。「何をしておいたらいいんですか?」って聞かれると、マニ

アルがないと何もできないのかなという気がしますね。

【A】 当社では、面接でも、学生が用意している提出物に書いてあることは一切聞きません。全然違うことから聞く。特に最近では、「今日、朝、新聞見てきた?」から聞くんです。ほぼ見てないですから。そこでまず、緊張感を上げて上げて。じゃあ、これからそういう経済の社会に入ってくるのに、なんで見てないの? で、学生からの答えは、まず「新聞を見る習慣がない」。そして「ネットのヤフーのニュースは見てます」と。

【D】 学生から聞かれるんですけど、「なぜネットのニュースじゃ駄目なんですか?」って。何て答えられますか。

【A】 個人的には、「もちろんニュースも載っているよ。ただ、今回こんな新しい本が出ました、ほかに今こういう時流があってこんなのがはやっています。それも載っているでしょう。新聞でも本読むのといっしょだから。ネットはそのニュースしか分からない。その他もろもろ、あるいはお客様と話をするについても、いろんな話題が載っている。確かに3000円、4000円は高いかもしれないけど、毎日読書して1か月3000円、4000円だったら絶対安いから、そっちにきなさい」と言ってます。

【E】 入社して4、5年たつ社員でも社内ですぐ書類をうまく作れないんです。お恥ずかしい話ですが、国語力がきわめて弱い。入社後の研修では毎月研修レポートを書かせます。そのときに指導役を付けるんですけど、新入社員には手書きで書かせる。それがまた全然駄目。手書きで文章を書けないというのは、まさに本を読まない影響なんじゃないかと感じますね。

【A】 今は自筆で書かないですからね。みんなこれ(ワープロ)ですから。

【B】 漢字が書けないですね。

【A】 勝手に変換してくれるから、自分で考えなくていい。それは当社でもそうですが、新人は研修3か月間はずっと手書き。毎日夜こつちが見て、赤字入れて。漢字もひどいですよ。「え、こんな漢字あったっけ?」って。調べてみると、やっぱり間違っている。テニヲハも句読点も駄目で、文章は「これ何言いたいのか?」だから。

【E】 エントリーしておきながら会社説明会に来ないのは、ウェブサイトでエントリーボタンを押して、同じエリアにあるからここも一括で押しておこうかっていうような人でしょね。エントリー入っていると、こちら「いついつに会社説明会をやりましますから」と返信しますが、そういうふうに一括でやったのは、だいたい来ませんね。

【A】 リクナビとかマイナビですね。

【B】 たとえば「建設業」ってほんと押せば、全部バーッと出て、一発でエントリーできますからね。だから自分が知らない会社であれば、エントリーしたこと自体覚えてないですよ。

【E】 担当者は、エントリーが来たからこの人はうちに興味を持っているだろうと勘違いしてしまいますよね。

【D】 まさに勘違いです。(笑)

【B】 それは情報会社も悪い。うちも、HPを見てエントリーすることもできるようになっているそうですので、もうそっち限定にしてくれと。

【A】 2、3年前から比べれば最近はよくなりました。リクルートもマイナビも、そういうことはやめましようとしているから。3、4年前が一番ひどかった。とにかくこの企業もエントリーがこ〜んなに。予約もこ〜んなに。

【E】 学生もかわいそうだと思いますね。



みんなそういう情報会社が、いついつからとあおる。そういうスタイルを作っちゃって、それが主流になったものだから企業もそれに乗っかっているわけです。乗り遅れないように早い時期から説明会やらなきゃいけないと。それがそもそも変わってきた原因じゃないかと思うんです。昔は違っただすけどね。

【B】 ある意味、学生さんも犠牲者なんですよ。早くエントリーしなきゃ、どんどん内定決まってくるよって。今年12月1日になったのは、ある意味いいことだと思いますね。学生さんに、3年生になって5月や6月から「あんた何やりたいんだ、企業を選べよ」っていうのはかわいそうですね。それをやってきたのが、おっしゃるところですよ。どんどんけしかけて、早く、早くと引っ張ってきた。

【A】 だけど、学校に、あるいは学科に募集出しても、学生がそれを見に行かない。ネットばかりで。

よく学生さんに言うのは、「ネットに載っていても、君の大学、たとえば日大が募集対象になっているのか、あるいは日大の自分の学科が募集対象になっているのか、それは学科の就職課に行って確認しないと駄目だよ」って。そうすると、「面倒くさいから」とか。「先生に一言二言、何か言われるから」とか。それじゃ駄目だって。

先生のところや就職課に行けば、すでに行っている先輩と君の成績を比較したりしながら、受ける前に合否判定をやってくれるんだから。

【E】 でも「面倒くさい」って。

【A】 あいさつできない、ノックできないと怒られるから行かない、と(笑)。

■やっぱり要らない、こんなヤツ

【E】 学生時代、何に一番力を入れていましたかと聞くんですが、最近では10人中8人はアルバイトですね。それも飲食系が多くて、なんとかリーダーをやって、そこで協調性を養いましたとか。

【D】 すごいですね。マニュアルのストーリー、そのまんまですね(笑)。

【E】 そのまんま。じゃあ、勉強は何をやっていたんだって。今、勘違いされている学生さんが多いようですが、アルバイトに一生懸命だったというのは、逆にマイナスなんじゃないかと思いますね。それより部活に力を入れて4年間やり通しましたというほうがよっぽどいい。あるいは、趣味で全国を回って、何かをやってきましたとか。ところが、趣味というほとんどがゲーム!

【A】 何回も言っていますが、草食系は要らない。当社は「肉食系男女」ですから、草食系は男も女も要らない。黙って待っている、動かない、しゃべらない……こんなのはブブーです。

【C】 ウソをつくヤツ。とりわけ自分にウソをつくヤツは要らない。一番欲しいのは自分に正直な人です。マニュアルうんぬんもそうですが、その人の素を見たいにもかかわらず、形ばかりにこだわる。そうじゃなくて、自分のありのままを出してもらいたいですね。

本音を言ってくれば、我々だって分かります。一般常識から大きく外れるとしたらそれは問題ですが、常識の範囲内でストレートに自分が思っていること、やりたいことを相手に伝えようという気持ちを前面に出せば、分かります。それができない人はマニ

アル的な人。何を訴えたいのが分からない人は、ノーサンキューですね。

【B】 私も、ウソをつく人間は要らない。地を出してくれと。素直に。そういう人は伸びると思うんですよ。ウソついて人気企業に入っても、絶対失敗すると思います。衛星を打ち上げた浪速の人たちだって、やっぱりウソをつかずに自分のやりたいことをやってきた優秀な人たちですよ。会社の大小は関係ない。

自分が何をやりたいのかを前面に出してくれる人は、こっちも「この人はやっていけるな」というものを感じるの。そういう人を採用したいと思います。

【D】 私たちは優秀な学生が欲しいわけじゃないんですよ。入社後に会社に貢献してくれる可能性の高い方が欲しいわけです。素直にチャレンジする気がない人は何も経験できませんし、分からないことがあったとき、人に協力を求めることができない人は仕事に限界があります。

どうしたらこの会社の内定取れるかじゃなくて、どうしたら自分がこの会社に貢献できるかに思いをはせていただければ、違うアプローチの仕方が見えてくるのかもしれない。

【E】 昨年もういろいろなことがありましたし、不安な要素が多い時代ですから「寄らば大樹」という気持ちも分かります。しかし、今はその大きいところでさえどうなるかわからない。仮にそうなりかけてもつぶされないだけのストレス耐性のある学生が欲しいんです。メンタル不調の休職が急増していますが、そういったことに打ち勝てる強い学生が一番いい。今日のテーマは「要らない」ですが、最後に、今はこういうのが「要る」ということで(笑)。

課題が大きいほど、ハードルが高いほど、最初の階段を昇らないとたどり着けない。鍵は万全の準備をしてゴールを具体的にイメージすること。



生産工学部は、学生が中心のキャンパスをめざし、教職員はもちろんのこと多くの方たちがさまざまなかたちで学生をバックアップしています。なかでも一段と心強いサポートをしてくださる卒業生の方々を紹介するのがこのコーナーです。今回は矢崎部品株式会社自動車機器技術開発室電線外装開発センター・勝亦信センター長にご登場いただきました。

卒業研究を通して学んだのは知識ではなく、仕事の手法

化学というのは機器分析のエリアで、機械に負うところが大きいわけです。日本大学には、当時最先端の分析装置がありました。せっかく化学の道に進むならそういうものに触ることができる大学へ行きたいと思ったのが、日本大学を選んだ理由です。

とは言っても3年生まではあまり勉強もしない、いわゆる“留年しない程度”の学生でした（笑）。実際にその分析装置に触ったのは4年生になってからでした。そして、その4年生の1年間こそが、その後の私の人生の基点になった1年だったと、今あらためて思っています。

幸運だったのは、卒業研究で故・平井長一郎先生の研究室に行けたことです。研究テーマは「多価アルコールとアルデヒドの反応」。当時まったく新しいテーマだったのに、あまりできのよくない自分たちがやらせてもらえたのは、今考えると不思議ですが、この卒業研究に取り組んだことで、現在も私が続けている「仕事への取り組みの基礎」を学ばせてもらいました。

新しいテーマだと、最初にやるのは調査。今ならITでいくらでも情報が取れますが、30年前はまず図書館にこもって先行研究の調査でした。地道に専門誌を調べていくしかありません。しかも専門誌は英語ですから、大変でした（笑）。

その先行文献を参考に合成実験、合成物の分取、そして定量分析。ここで初めて前述した分析装置に触れたわけですが（笑）、とにかく実に広範囲な作業を必要とされるテーマでした。

その作業を通して学んだのは、限られた分野の「知識」ではなくて、「手法」、つまりやり方でした。そして、その手法は社会に出てからも十分通用しました。

全力投球の「For The Company」が個人や家族の幸せにつながる

4年生の1年間があまりにも充実していたので、まだ学生でいたい気持ちもありましたが、平井先生が「勝亦君、それは駄目だよ。君は社会に出るんだ。工学は人類の幸せのためにあるんだから。それを生かせ」っておっしゃったんです。ストレートに「ああそうなんだ。じゃあ社会に出よう」ということで就職しました。ただ、矢崎総業に入社したのは、たまたまです（笑）。

卒業したら地元（静岡県御殿場市）に、と決めていました。で、たまたま自宅の近くに矢崎の工場があって募集しているというので、会社説明会に行ってみました。そこで「勝亦さんは化学か。矢崎は原材料から製品まで全部やっている。これからは化学が大事だぞ」と、たまたま役員の方から声をかけていただきました。化学のことなので活発に質問できたことが評価されたのか、まだ願書も出していないその日のうちに「君、矢崎に来いよ」と言っていました（笑）。

矢崎では、入社以来ほぼ一貫してワイヤーハーネスの開発にかかわってきました。ワイヤーハーネスというのは、クルマに使う電線です。クルマ1台の中には、高級車なら長さを合計すると3kmぐらいの電線が通っています。1本当たり1mぐらいなので、皆さんはおおよそ3000本もの電線を積んで走っているわけです。

【PROILE】

勝亦 信（かつまた まこと）

昭和33年生まれ。静岡県出身。昭和56年工業化学科卒業。同年4月矢崎総業株式会社入社。以来、ほぼ一貫してワイヤーハーネスの評価、開発、材料開発などを担当。その間、信州大学（1994年工学系研究科にて博士後期課程修了）や米国マサチューセッツ州ノースイスタン大学（1998年招聘研究員として材料共同開発担当）に学び、現在は矢崎部品株式会社自動車機器技術開発室電線外装開発センター長として技術開発および若手技術者の育成に心血を注ぐ。



矢崎部品株式会社 自動車機器技術開発室 電線外装開発センター長 勝亦 信氏

ワイヤーハーネスはテレビのCMじゃないですけど、燃費をよくするために軽くしていかなきゃならない。これは、これまでもずっと取り組んできたことであり、今後も変わらない恒久の命題です。

今は電動化が進んでいますが、そこでも重視されるのは走行距離。「燃費」ならぬ「電費」ですね（笑）。あるカーメーカーさんには「勝亦さん、ワイヤーハーネスは形がなくて、重さがなくて、機能だけあればいいんだよね」と言われました（笑）。

その機能とは電気エネルギーもしくは電気信号を伝えることですから、それを満たすも

のであれば、現在のワイヤーハーネスに置き換わるものが出てくることだってあり得ます。そういう意味では、常に全力で、安くてよいものを開発し、量産化していかなければなりません。For the Companyとしてそれができれば、個人としても家族の幸せにつながり、さらには人類の幸せに貢献できると、自分は考えています。

仕事を成し遂げた達成感と感動を共有したい

今、センター長としての大きな仕事は人材の育成です。先輩たちが大変な苦勞をしてくれたおかげで自分の今仕事ができている。だったら、自分たちだって若い人たちを育ててあげなければいけないですよね。海外出張でスイスなんかに行くと、石畳の街を日本のクルマが走っています。そのかっこよさってないですよ。『このクルマのハーネスってうちのだよな』って。そういう感動を、いっしょに仕事をしている若い人に共有してほしいですね。

今、若い人たちにアドバイスできるとした

ら、新しいことに取りかかるときは、しっかり準備をして、まずゴールの姿をイメージしないということ。ただイメージするだけじゃなくて、数値目標に置き換えて「いくつ」とか、「いつまでに」とか具体的に。「2月の中旬」じゃなくて「2月14日までに」というふうにイメージしないと、たぶんたどり着けない。自分も怠け者ですが、「2月の14日までに」と明確に言っておくと、2月の13日にはやるんです（笑）。

課題が大きいほど、そしてハードルが高いほど、最初の階段を昇らない限りは絶対にたどり着けない。まずその最初の階段が一番大事じゃないですかね。

【取材後記】

ご本人に言わせれば、平井研究室に入れたのも、矢崎総業に入社したのも「たまたま」。謙虚なことこの上ないが、逆に言えば常に選ばれし人だ。その極めつけは同じ平井研究室のメンバーだった奥様から選ばれたことか。深夜にも及ぶ激務や趣味の野球、釣りに時間をとられ、「家のことは任せっきりでした。自分にはもったいないほどのワIFE。本当に感謝してます」。勝亦さんの人柄がにじみ出る言葉でした。



平井長一郎先生
（1927～2008年）

昭和49年に生産工学部教授に就任。平成3年から生産工学部長、平成6年からは日本大学副総長を歴任した後、平成9年定年退職。平成10年からは日本大学名誉教授。平成19年瑞宝中綬章受賞。

機械工学科

韓国人女子学生が海外インターンシップ生として研修

韓国の慶尚大学校工科大学修士課程1年生の金姫慶さんが、海外インターンシップ研修生として平成23年12月1日から1か月間、久保田研究室で「軽量構造材料の熱的安定に関する研究」に取り組みました。

慶尚大学校は、平成23年度に新たに生産工学部海外学術提携校となった大学です。

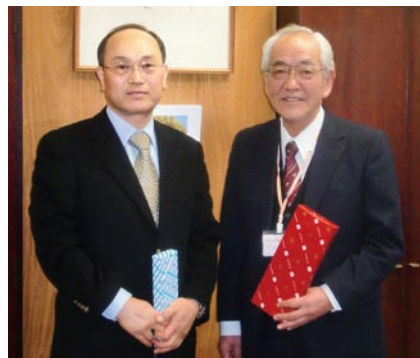


金姫慶さん（写真中央）と久保田研究室の仲間

金さんの指導教授は林水根先生で、昭和63年度に本学大学院生産工学研究科機械工学専攻博士後期課程を修了しています。

金さんは慣れない日本での生活の中で、学術講演会参加、研究室内の輪読会、そして与えられた研究テーマを積極的に取り組みました。その研究成果の一部は本年5月に開催される軽金属学会春期大会で口頭発表の予定です。機械工学科女子会の積極的なサポートもあり、金さんの会話は日増しに上達し、送別会の席上では日本語で書いた感謝の手紙を研究室のメンバー全員へ渡すこともできました。一方、研究室の学生は、事前準備、研究補助、懇親会を通して韓国の文化や言葉を学び、国際感覚を養うことができました。

金さんは海外学術提携校の第1期生として来日しましたが、今後、両大学の交流が益々深まることが期待されます。国際交流委員会を始め、学部事務局から多大なサポートを賜りました。ここに深く感謝の意を表します。



林水根教授（写真左）と松井勇学部長

日本機械学会関東支部総会講演会を開催

日本機械学会関東支部第18期総会講演会（実行委員長：邊吾一教授）が、平成24年3月9・10日に津田沼キャンパス37号館で開催されました。学部との共催の公開講座「セシウムを含む放射性物質の人体への影響」は、日大医学部の佐貫榮一先生に担当していただきました。特別講演「自動車における安全技術の変遷と将来展望」は、本学科の景山一郎教授が行いました。

講演数は卒研発表会を含め約600件、来場者は約2000人でした。

建築工学科

日本建築学会関東支部主催の第13回提案競技で、川岸研究室チームが優秀賞を受賞

川岸梅和教授を代表とする川岸研究室チーム（北野幸樹准教授、創生デザイン学科研究員 杉本弘文、博士後期課程1年 野田りさ、博士前期課程1年 田林映）は、第13回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」〔テーマ：「風格を古河の街に展開する」、主催：日本建築学会関東支部〕において、優秀賞を受賞した。（平成23年11月12日）



「人をもてなし、時をしつらえ、礼をふるまう」を作品タイトルとして、日本で伝統的に受け継がれてきた「もてなし」「しつらい」「ふるまい」を基盤としてまちなかや通りの境界に展開させ、表空間と裏空間が結びつきながら、人・活動・空間・時間・歴史（文化）・コミュニティが相互に浸透・補完し合う状況

づくりを行うとともに、風土・風情・風趣・風習・風景を活かした再生・活性化を行い、多世代に渡って住まい続けられ、古河のまちに風格を展開する地域居住者が主体となるまちづくり・まち育てを提案している。

電気電子工学科

2010年度 電子情報通信学会 衛星通信研究賞を受賞

電気電子工学科の田中将義教授と間舘大泰氏（元大学院生、現京セラ株式会社）が発表した「多値変調波の高効率電力増幅の検討 一空間重畳合成一」の研究論文が電子情報通信学会 衛星通信研究賞を受賞しました。本賞は、2010年度の電子情報通信学会衛星通信研究会において発表された論文の中で、特に優秀であると認められたものに与えられたものです。

この論文では、有限資源である周波数帯域の有効利用と無線送信機の省電力化に有効な技術として、多値変調波を空間でベクトル重畳合成して実現する新たな方式を提案しています。

在校生が第一級陸上無線技術士試験に合格

電気電子工学科の大窪健作君（大学院前期課程2年生、田中研）と小辰将司君（4年生、坂口研）は、平成23年に実施された無線従事者国家試験において、第一級陸上無線技術士に見事合格しました。

第一級陸上無線技術士は、総務省が管轄している無線従事者免許の1つで、第一級総合無線通信士と並んで無線従事者免許の最高峰の資格です。

無線通信に用いる設備の技術操作を行うた

めの資格であり、特に放送局、通信事業者などの無線局の事業者においては必置資格です。

試験の難易度は高く、例年合格率は9%程度です。現役の学生が合格することは稀です。

大窪健作君は日本電設工業（株）で、小辰将司君は全日空整備（株）で、本資格を生かした活躍が期待されます。



写真左側：大窪健作君、右側：小辰将司君

応用分子化学科

受賞した学生たち

第38回有機典型元素化学討論会においてM1 諸嶋友人君が優秀ポスター賞、分離技術会2011年会において、M2 三浦裕彦君とM1 大矢浩平君が学生賞、竹内基君が奨励賞（東洋エンジニアリング賞）を受賞しました。

学部が主催した学生アイデアコンペにおいて学部4年宮原千恵美さんほか4名のグループが優秀賞、M2 杉山悠君ほか3名のグループと学部3年樋口翔太君のそれぞれが佳作を受賞しました。さらに、樋口翔太君は日本インターンシップ推進協会が主催するインターンシップ成果発表会においてポスター賞を受賞しました。

おめでとうございます。

学科同窓会幹事会の様子

学部創設60周年記念 学科同窓会

平成23年11月26日（土）に校門会館で開催された、応用分子化学科と校友会応用分子化学部会の合同幹事会において、学部創設60周年を記念して本学科卒業生が一同に集う「工業化学科・応用分子化学科同窓会」を次の日程で行うことが決まりました。

【日時】平成24年11月24日（土）13時～ 講演会・情報交換会・懇親会

【場所】日本大学生産工学部 津田沼キャンパス



マネジメント工学科

弁理士試験合格体験記

マネジメント工学科知財経営コース

平成 22 年度卒業 河合研究室 佐藤秀信

このたび難関といわれる弁理士試験に合格し、直接ご指導いただいた河合先生・大滝先生をはじめ、大変お世話になった先生方に厚く御礼申し上げます。私が、弁理士試験に合格することができたのは、ひとえに先生方および、大学の助勢あつてのことだと心底より感謝いたしております。

私は「知的創作物」に幼い頃から魅力を感じており、「弁理士」になることが私の夢でした。

弁理士になるためには、弁理士試験に合格することが必要です。そのために、受験予備校で勉強する方法が一般的です。私の、生産工学部マネジメント工学科に通い、弁理士を目指す決断は、最適な選択でした。試験合格だけでは、私の目指す弁理士になれないからです。

私が目指す弁理士は、知的創作物の本質を見抜いた上で、それを保護、活用することができる弁理士です。そのためには、「法律知識」、「技術知識」、「活用知識」が必要になります。このすべてが、本学科に存在していました。

「知的財産権概論」、「特許・実用新案法」等で、知的財産権法の基本を学びました。基本とはいえ、指導者は卓越した知識をお持ちの河合先生等の弁理士の先生方です。今思え

ば、与えていただいた知識は論理の本質を貫いておりました。また、講義外にもかかわらずいつでも質問に対応していただき、ここで賜ったご指導が、弁理士試験合格に大きく寄与いたしました。

「情報技術」、「情報技術概論」等で、専攻分野の技術的な基礎知識を学ぶことができ、「知的財産権管理」、「知的財産戦略」等で、知的財産の活用知識を学びました。弁理士としてご経験豊かな先生方に、いかにすれば知

的財産を有効活用できるのかを実例とともに説いていただきました。

私は本学科で、プロとして恥ずかしくない「弁理士になる」ための知識を与えていただいたと感じております。勤務先のメーカーで、上述の知識を使いながら夢の一步を踏出しています。

最後になりましたが、先生方・大学・仲間・両親に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。



数理情報工学科

昨年 CG-ARTS 協会の教育認定校となり、2011 年度後期 CG 検定に 39 名が合格

数理情報工学科にメディアデザインコースが 2009 年 4 月に新設されて丸 3 年が経過し、一期生が 2012 年春から 4 年生になります。

情報工学コースと情報数理コースを合わせて 1 学年が 160 名を超える大きな学科となり、これまで以上に多様な教育ができるようになりました。

2011 年 6 月に当学科は、CG-ARTS 協会の教育認定校となり、コンピュータグラフィックス (CG) に関連する各分野の開発を行うエンジニア、プログラマー、そしてクリエイターを目指す学生にとって、これまで以上に魅力的な環境が整いました。

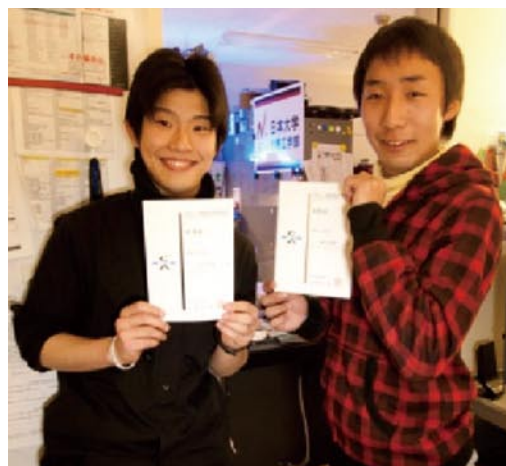
11 月に実施された 2011 年度後期 CG 検定には延べ 90 人の学生がチャレンジし、39 人の学生が合格しました。その中には、特に難関である CG エンジニアのエキスパート部門に 3 年生 4 名が合格したほか、

1 年生 3 名がベーシック部門に合格しました (写真左はその内 2 名)。

これらの資格は、これまで学科で推進してきた情報処理技術者試験と併せて、就活時の強力な武器となるものです。

また、学部 3、4 年生による研究成果は様々なメディアで取り上げられ、2011

年 4 月には NHK-FM 千葉の生番組、2012 年 1 月には NHK 総合の爆問学園、2 月には FM 大阪に学生が出演する等、数理情報工学科の学生は様々な場所で活躍し、それらをエンジョイしています。このような先輩を目指して入学してくる新入生が、今後さらに増えることを期待しています。



CG 検定に合格した 1 年生



研究成果の一部とラジオ・テレビ出演時の記念写真

WINCOM 2011

第 4 回 風力発電コンペ

第 4 回 風力発電コンペ WINCOM2011 は、平成 23 年 10 月 30 日 (日) に開催されました。参加者の皆さま、ありがとうございました。今回の結果を発表いたします (氏名の敬称略)。



■発電量部門

最優秀賞

システム名称「Woody WING II」
千葉県立茂原樟陽高等学校
指導教員名：中村 文雄
代表者氏名：細矢 佳佑

優秀賞

システム名称「GALE」
千葉県立柏の葉高等学校
指導教員名：沼崎 拓也
代表者氏名：江口 揺二

優秀賞

システム名称「風子ちゃん」
神奈川県立横須賀工業高等学校
指導教員名：遠藤 康貴
代表者氏名：西村 照

デザイン賞

システム名称「Electric shock」
千葉県立国府台高等学校
指導教員名：米山 知諭記
代表者氏名：峰川 万葉

デザイン賞

システム名称「DENKEN - 03」
千葉県立幕張総合高等学校
指導教員名：阿部 肇
代表者氏名：遠藤 康平

アイデア賞

システム名称「神風クイック」
千葉県立柏の葉高等学校
指導教員名：沼崎 拓也
代表者氏名：江口 揺二

アイデア賞

システム名称「イナサ」
山形県立山形工業高等学校
指導教員名：櫻井 晋弥
代表者氏名：小玉 稜

日本風力エネルギー学会賞

システム名称「風太くん」
神奈川県立横須賀工業高等学校
指導教員名：遠藤 康貴
代表者氏名：木村 里子

■オープン参加

優秀賞

システム名称「WINDER」
日本大学生産工学部機械工学科
代表者氏名：平山 健一

デザイン賞

システム名称
「コアレスモーター利用風力発電機」
個人参加：相馬 孝雄

学生アイデアコンペ

2011 開催

学生アイデアコンペ 2011 開催

【わたしの生産工キャンパスライフ自慢!!】をメインコンセプトとした「学生アイデアコンペ 2011」が 11 月 3 日 (木) に開催されました。

生産工学部のキャンパスライフの中で、物理的な環境にとどまらず、さまざまな視点によるキャンパス自慢が、活き活きと提案され、充実したコンペとなりました。学生の皆さんの多数の提案と参加、ありがとうございました。

最優秀賞

作品名・テーマ：Produced by us

～未来を生み出すものづくり～

制作者 小沼 俊介 (建築工学専攻 M2 年)



優秀賞

作品名・テーマ：わたしのじまん

一心の源一

制作者 遠田 拓也 (建築工学科 2 年)

優秀賞

作品名・テーマ：教授と学生

～刺激的な毎日～

制作者 宮原 千絵美 (応用分子化学科 4 年)

共同制作者 岩部 悠 (応用分子化学専攻 M2 年)

小笠原 明 (応用分子化学科 4 年)

寺岡 裕晃 (応用分子化学科 4 年)

菊田 真大 (応用分子化学科 4 年)

日本大学による表彰学生

総長賞

土木工学科 4 年

伊藤 義晃 (いとう よしあき)

優等賞 (26 名)

機械工学科 4 年生 岩崎 祐樹
〃 4 年生 山口 和晃
〃 4 年生 池島 康介
〃 4 年生 比嘉 恵理子
〃 4 年生 小倉 健太

電気電子工学科 4 年生 石崎 洋平
〃 4 年生 齋藤 紘一
〃 4 年生 風戸 裕貴
〃 4 年生 平山 礼明

土木工学科 4 年生 笹本 怜央
〃 4 年生 横山 雄亮
〃 4 年生 福田 成章

建築工学科 4 年生 大塚 優

建築工学科 4 年生 石川 恵実
〃 4 年生 彦由 綾奈
〃 4 年生 茂木 大佑
〃 4 年生 田中 彩華

応用分子化学科 4 年生 恩田 奈都
〃 4 年生 作田 康次郎
〃 4 年生 市之宮 彩

マネジメント工学科 4 年生 平山 圭太
〃 4 年生 橋本 一輝
〃 4 年生 柴田 彩佳
〃 4 年生 松尾 亮輔

数理情報工学科 4 年生 三浦 拓馬
〃 4 年生 兒玉 雄佑

生産工学部による表彰学生

学部長賞

体育部門 (2 名)

空手部

機械工学科 4 年生 小池 央純
内閣総理大臣杯第 26 回 (2008 年) 全日本オープン硬式空手道選手権大会・組手一般の部団体戦で準優勝

弓道部

建築工学科 4 年生 鈴木 里佳子
平成 21 年度第 27 回千葉県学生弓道選手権大会女子個人戦準優勝

精励賞

学術・文化部門 (21 名)

機械工学専攻 M2 松本 隆宏
平成 22 年度第 19 回微粒化シンポジウム (主催: 日本液体微粒化学会) において学術講演を行い、日本エネルギー学会奨励賞受賞 (対象 35 名中 8 名)

機械工学科 4 年生 池島 康介
2009 年度第 29 回本田宗一郎杯 Honda エコノパワー燃費競技全国大会 (主催・本田技研工業株式会社) 市販車クラス第 3 位入賞 (参加チーム数 56 台)

機械工学科 4 年生 渡辺 涼太郎
2009 年度第 29 回本田宗一郎杯 Honda エコノパワー燃費競技全国大会 (主催・本田技研工業株式会社) 市販車クラス第 3 位入賞 (参加チーム数 56 台)

電気電子工学専攻 M2 鷲尾 洋範
2010 年度第 28 回電気設備学会全国大会において講演発表を行い発表奨励賞を受賞した。 (177 件中 16 件)

土木工学専攻 M2 千野 琢磨
土木学会平成 22 年度全国大会第 65 回年次学術講演会・第 V 部門「土木材料、舗装工学」において講演を行い、優秀講演者に選出された。 (応募者数 3627 名中、受賞者 248 名)

土木工学専攻 M2 新山 祐樹
土木学会平成 22 年度全国大会第 65 回年次学術講演会・第 V 部門「土木材料、舗装工学」において講演を行い、優秀講演者に選出された。 (応募者数 3627 名中、受賞者 248 名)

建築工学専攻 M2 稲富 龍
平成 22 年度第 12 回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」 (主催 (社) 日本建築学会関東支部) において、「Community Supported TOMIOKA ～塔が彩る地域資源を活かした居住者主体のまちづくり」が最優秀賞受賞 (久保木修平等共同制作。応募件数未公開)

建築工学専攻 M2 大沼 慈佳
2010 年度支部共通事業日本建築学会設計競技「大きな自然に呼応する建築」において、松浦真也等との共同作品が全国佳作受賞 (応募作品 433 点、支部入選 96 点)

建築工学専攻 M2 大室 真悟
① 2010 年度支部共通事業日本建築学会設計競技「大きな自然に呼応する建築」において、松浦真也等との共同作品が全国佳作受賞 (応募作品 433 点、支部入選 96 点)
② 学生を対象とした 2011 年度第 3 回ハーフェレ学生デザインコンペティション (主催 (株) ハーフェレ) において須藤裕介等との共同作品が入選 (応募作品 256 点、最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、入選 3 点)

建築工学専攻 M2 久保木 修平
平成 22 年度第 12 回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」 (主催 (社) 日本建築学会関東支部) において、「Community Supported TOMIOKA ～塔が彩る地域資源を活かした居住者主体のまちづくり」が最優秀賞受賞 (稲富龍等共同制作。応募件数未公開)

建築工学専攻 M2 小沼 俊介
平成 22 年度第 12 回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」 (主催 (社) 日本建築学会関東支部) において、「Community Supported TOMIOKA ～塔が彩る地域資源を活かした居住者主体のまちづくり」が最優秀賞受賞 (稲富龍等共同制作。応募件数未公開)

建築工学専攻 M2 鈴木 健太郎
平成 22 年度第 12 回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」 (主催 (社) 日本建築学会関東支部) において、「Community Supported TOMIOKA ～塔が彩る地域資源を活かした居住者主体のまちづくり」が最優秀賞受賞 (稲富龍等共同制作。応募件数未公開)

建築工学専攻 M2 須藤 裕介
① 2010 年度支部共通事業日本建築学会設計競技「大きな自然に呼応する建築」において、松浦真也等との共同作品が全国佳作受賞 (応募作品 433 点、支部入選 96 点)
② 学生を対象とした 2011 年度第 3 回ハーフェレ学生デザインコンペティション (主催 (株) ハーフェレ) において大室真悟等との共同作品が入選 (応募作品 256 点、最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、入選 3 点)

建築工学専攻 M2 永井 悠次郎
平成 22 年度第 12 回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」 (主催 (社) 日本建築学会関東支部) において、「Community Supported TOMIOKA ～塔が彩る地域資源を活かした居住者主体のまちづくり」が最優秀賞受賞 (稲富龍等共同制作。応募件数未公開)

建築工学専攻 M2 松浦 真也
2010 年度支部共通事業日本建築学会設計競技「大きな自然に呼応する建築」において、大室真悟等との共同作品が全国佳作受賞 (応募作品 433 点、支部入選 96 点)

建築工学科 4 年生 阿部 雄介
① 2011 年第 3 回日本大学校門建築会学生設計コンペティション (日本大学校門建築会による企画) にて会長賞受賞 (岡安佐和等と共同制作。応募作品 46 点、最優秀賞 1 点、会長賞 1 点、優秀賞 2 点)
② おおさかカンヴァス推進事業 2011 (主催・大阪府) において、武藤大樹等との共同作品が展示発表作品 43 点に選出された。 (応募作品数 276 点、展示発表 43 点)

建築工学科 4 年生 須永 則明
JSBC 日本サステナブル建築協会・知的生産性アイデアコンペ A 部門「つくる立場から」において福島彰人等との共同作品が佳作受賞 (応募作品 116 点、入選 10 点)

建築工学科 4 年生 中島 紀子
学生を対象とした 2011 年度第 3 回ハーフェレ学生デザインコンペティション (主催 (株) ハーフェレ) において大室真悟等との共同作品が入選 (応募作品 256 点、最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、入選 3 点)

建築工学科 4 年生 福島 彰人
JSBC 日本サステナブル建築協会・知的生産性アイデアコンペ A 部門「つくる立場から」において須永則明等との共同作品が佳作受賞 (応募作品 116 点、入選 10 点)

建築工学科 4 年生 森下 裕加里
JSBC 日本サステナブル建築協会・知的生産性アイデアコンペ A 部門「つくる立場から」において須永則明等との共同作品が佳作受賞 (応募作品 116 点、入選 10 点)

応用分子化学専攻 M2 三浦 裕彦
2011 年分離技術会年会 (主催: 分離技術会) の「プロセス化学と分離技術」セッションにおいてポスター発表を行い、優秀賞 (学生賞) を受賞した。 (20 件中、受賞 2 件)

体育部門 (11 名)

バレーボール部 (2 名)
機械工学科 4 年生 鶴田 祐次
平成 20 年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

機械工学科 4 年生 庭野 弘武
平成 20 年度日本大学体育大会バレーボール競技会優勝

バスケットボール部 (5 名)
機械工学科 4 年生 佐々木 翔平
関東理工系バスケットボール連盟 2008 年秋季トーナメント大会優勝

機械工学科 4 年生 阿部 慎也
関東理工系バスケットボール連盟 2008 年秋季トーナメント大会優勝

土木工学科 4 年生 磯野 翔平
関東理工系バスケットボール連盟 2008 年秋季トーナメント大会優勝

建築工学科 4 年生 江口 裕二
関東理工系バスケットボール連盟 2008 年秋季トーナメント大会優勝

マネジメント工学科 4 年生 土屋 諒
関東理工系バスケットボール連盟 2008 年秋季トーナメント大会優勝

スキー部 (4 名)
機械工学科 4 年生 白井 謙佑
① 平成 20 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝
② 平成 21 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝
③ 平成 22 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝

機械工学科 4 年生 中川 智継
① 平成 20 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝
② 平成 21 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝
③ 平成 22 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝

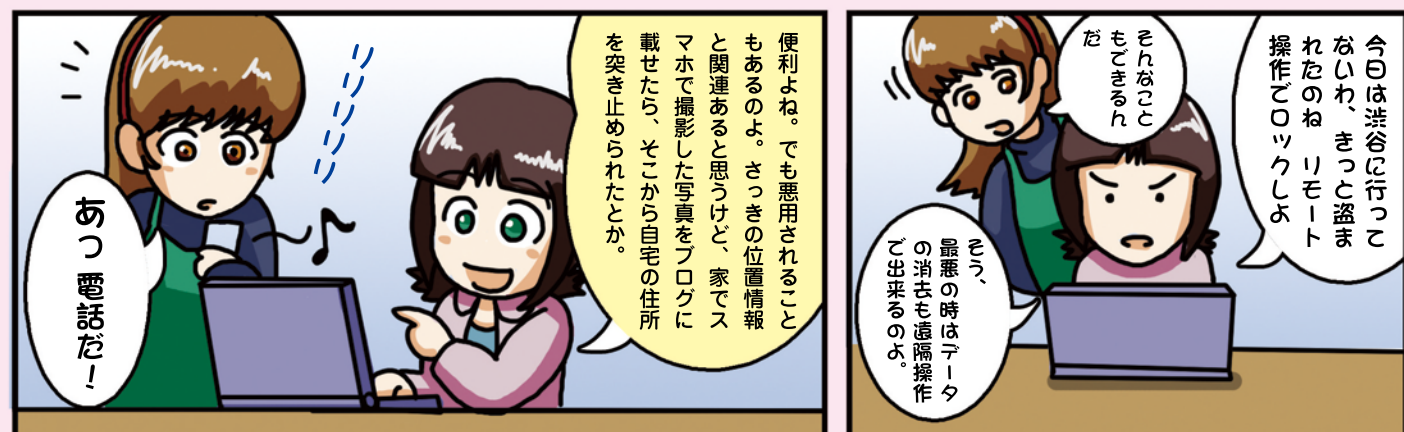
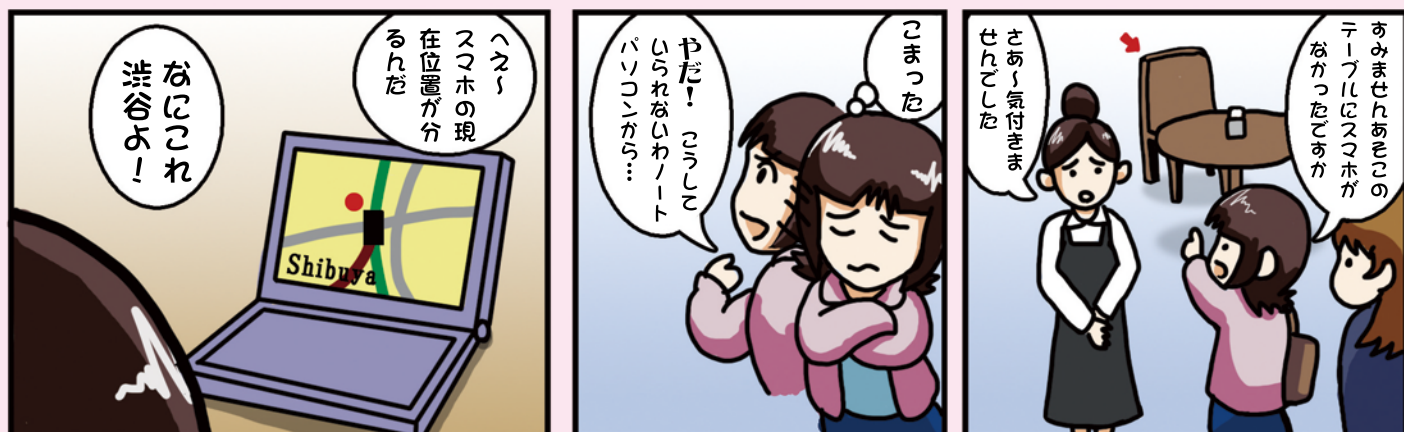
マネジメント工学科 4 年生 鬼澤 行正
① 平成 20 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝
② 平成 21 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝
③ 平成 22 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝

マネジメント工学科 4 年生 松田 秀之
① 平成 20 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝
② 平成 21 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝
③ 平成 22 年度日本大学体育大会スキー競技会男子団体総合優勝



BikaBika 生産工

注意しようスマートフォンの巻 画：岡野 洋太



急激に普及しているスマートフォン。就活にも大いに活用されているけど、それに比例して不正アプリも急増しています。これまで、通話記録や個人情報など情報を盗み取るボット（不正ソフト）が中心だったけど、このごろPC向けに横行していたワンクリック詐欺がスマホ向けに特化して被害が開始したというワ。情報管理面からもまた、犯罪の被害に遭わないためにも、安易なアプリのダウンロードや軽率な写真等のWebへのアップは慎むべきネ。セキュリティのことは<http://special.security.yahoo.co.jp/>を参考にしてみてください。

なに！地図がわりにお姉さんのスマホを借りたって！
あり得ない！



平成24年度行事予定				
行 事	2～4 年次：津田沼校舎	1 年次：実籾校舎	大学院	備 考
開 講 式		4 月 2 日（月）津田沼校舎	4 月 2 日（月）	
ガ イ ダ ン ス	4 月 3 日（火）～7 日（土） ※応化2・3 年 4/2（月）から ※教職課程 4/4（水）、6 日（金）	4 月 2 日（月）～7 日（土）	4 月 2 日（月）	4/3 にプレースメントテスト（1 年次生）・学力テスト（2 年次生）実施
入 学 式		4 月 8 日（日）		日本武道館
前 期 授 業 開 始		4 月 9 日（月）		5/1（火）、5/2（水）休校
定 期 健 康 診 断	4 月 10 日（火）～13 日（金）	女子学生：4 月 12 日（木）・13 日（金）		
ス ポ ー ツ 大 会		5 月 19 日（土）		
大学院入学試験（第1期）・学内選考			7 月 7 日（土）	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	7 月 15 日（日）			
前 期 授 業 終 了		7 月 30 日（月）		7/14、7/21、7/28 は授業予備日
補 季 休 業	7 月 31 日（火）～9 月 18 日（火）※応用分子化学科1・2・3 年のみ9/17（月・祝）まで	土曜日適宜実施	7 月 31 日（火）～9 月 18（火）	
オ ー プ ン キ ャ ン パ ス	8 月 4 日（土）・5 日（日）			
後 期 ガ イ ダ ン ス	9 月 19 日（水）※応用分子化学科1・2・3 年のみ9/18（火）・9/19（水）		9 月 19 日（水）	
後 期 授 業 開 始	9 月 20 日（木）			
A O 入 学 試 験	9 月 15 日（土）・16 日（日）			
卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式（9 月）	9 月 27 日（木）		9 月 27 日（木）	
父 母 懇 談 会	9 月 29 日（土）津田沼校舎			
創 立 記 念 日	10 月 4 日（木）			休校
編 入 学 試 験（2 年次・3 年次）	10 月 13 日（土）		10 月 13 日（土）	
外 国 人 留 学 生 入 学 試 験	10 月 13 日（土）			
帰 国 生 入 学 試 験	10 月 13 日（土）			
校 友 子 女 入 学 試 験	10 月 13 日（土）			
学 部 創 設 60 周 年 記 念 式 典	10 月 20 日（土）			
父 母 懇 談 会	10 月 27 日（土）地方別実施			
学 部 祭（桜泉祭）	11 月 3 日（土・祝）・4 日（日）			（11 月 2 日準備日 11 月 5 日片付け）
入 試 説 明 会 ・ オ ー プ ン ラ ボ	11 月 3 日（土・祝）			
指 定 校 制 推 薦 入 学 試 験	11 月 17 日（土）			
提 携 校 推 薦 入 学 試 験	11 月 17 日（土）			
体 育 推 薦 入 学 試 験	11 月 24 日（土）			
ト ッ プ ア ス リ ー ト 推 薦 入 学 試 験	11 月 24 日（土）			
付 属 高 等 学 校 等 入 学 試 験（付 属 推 薦 B 方 式）	11 月 24 日（土）			
博 士 論 文 提 出 期 日			11 月 22 日（木）	
学 術 講 演 会	12 月 1 日（土）			
公 募 制 推 薦 入 学 試 験	12 月 8 日（土）			
付 属 高 等 学 校 等 入 学 試 験（付 属 推 薦 A 方 式）	12 月 15 日（土）			
冬 季 休 業	12 月 25 日（火）～1 月 10 日（木）		12 月 25 日（火）～1 月 10 日（木）	学部：12/22、1/12、2/2 は授業予備日
後 期 授 業 終 了	2 月 4 日（月）			
補 講	土曜日適宜実施			
大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験（C 方 式）	1 月 19 日（土）・20 日（日）			
修 士 論 文 概 要（初 稿）提 出 期 日			1 月 24 日（木）	
入 学 試 験	A 1 方 式	2 月 1 日（金）		
	A 2 方 式	2 月 9 日（土）		
	A 3 方 式	2 月 19 日（火）		
修 士 論 文 提 出 期 日			2 月 25 日（月）	
大 学 院 入 学 試 験（第 2 期）			3 月 2 日（土）	
転 科 試 験（2 年 次）	3 月 4 日（月）			
卒 業 式 ・ 学 位 授 与 式	3 月 25 日（月）		3 月 25 日（月）	日本武道館

個人情報の取扱い告知文

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報は、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

（問合せ先） 生産工学部教務課・学生課

生産工学部就職セミナー



雨の中、開場を待つ学生たち



セミナーの様子を見守る父母の方々

2月の6、7、8日に生産工学部の就職セミナーが行われました。セミナー参加企業は325社と、超氷河期といわれる就職状況にあって、多数の積極的な企業参加がありました。あいにく6、7日は雨天でしたが、それにもかかわらず大勢の学生が詰めかけ、会場は熱気に包まれました。



スプリング
SPRING No.98

(日本大学生産工学部だより)

平成24年3月21日発行

編集・発行 日本大学生産工学部 広報委員会

本誌に関する照会その他は下記をお願いします。

〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1 日本大学生産工学部 庶務課

電話 047-474-2201 FAX 047-479-2432

E-mail : cit.info.shomu@nihon-u.ac.jp

www.cit.nihon-u.ac.jp

No.98

SPRING

日本大学生産工学部 2012年3月21日発行

■学部長メッセージ
■卒業生へ贈るお祝いメッセージ

■特集

2011年の就職状況と
2012年の展望

■就職活動体験記

■特別企画・覆面座談会

こんなヤツ要らない!!

企業採用担当者からの「反面教師的アドバイス」

■連載／卒業生インタビュー

矢崎部品(株) 電線外装開発センター長 勝亦 信さん

■学科ニュース

■CAMPUS NEWS

■平成23年度表彰学生

■ミモミのもっととBikaBika生産工

■平成24年度行事予定